

令和 8 年度 県立下館第一高等学校自己評価表

目指す学校像	【目指す学校像】 自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財育成を目指し、生徒と教師がともに学び合う学校 【育てたい生徒像】 様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダー ○ 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒 ○ 豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒 ○ 未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた生徒			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする人財 ②豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる人財 ③未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた人財		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①進学重視型単位制の多様な科目選択と課題解決重視型の授業展開を活用した個に応じた主体的で深い学び、高い学力の育成による進路希望実現 ②人権教育や道徳教育を積極的に推進し心の教育の充実を図り、豊かな人間性を基礎にした進路希望実現 ③探究活動を中心に、学校外部資源との連携や姉妹校との国際交流・語学研修を積極的に進め、地域から世界へ活躍の場を広げる次世代リーダーとしての素養をもとにした進路希望実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①基礎・基本を重視した日々の学習を継続的に進め、確かな学力を身に付け、発展的な学習へと意欲的に学習する生徒 ②挨拶を励行し、規律ある生活習慣を心がける自律に努める生徒 ③部活動や探究活動をととして、多様な他者との協働に積極的に取り組む生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
「県立学校等チャレンジ・プロジェクト」重点校として「館一探究プログレスー共創する未来、地域から世界へー」を軸に、これまでの事業を発展させる。国際社会や地域社会の課題を発見し、主体的・創造的・協働的に課題解決に挑戦する資質や能力を育成することが目標である。グローバル教育アドバイザーやグローバルサポートカンパニーと連携し、地域から世界へ活躍の場を広げる次世代リーダーに必要な資質・能力を育成する。また、DX ハイスクール採択校（3年目）として、企業から最先端のデジタル技術を提供いただき、ICTを活用した文理横断的・探究的な学びをさらに強化していく。		確かな学力の定着と進路指導の充実	①地域から世界へ活躍の場を広げる次世代リーダーの育成を目指し、DXハイスクール事業をさらに推し進めるとともに、「県立学校等チャレンジ・プロジェクト」重点校として、「館一探究プログレスー共創する未来、地域から世界へー」事業を推進する。グローバル教育アドバイザーやグローバルサポートカンパニーの協力と海外の高校・大学との国際交流、オーストラリア国際研修プログラムにより、国際社会や地域社会で活躍できる生徒を育てる。 ②相互授業参観や職員研修会、附属中学校の授業参観、中高一貫校先進校視察、予備校等での授業研修を通じて、自立した学習者の育成を目指し、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善に取り組み、「思考力・判断力・表現力を伸ばす授業」を展開する。 ③日々の授業を大切にするとともに、紫西CS、夏季特別講座、平常課外など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって学習意欲を喚起し、生徒一人一人の可能性を引き出す進路指導に努める。 ④国公立大学合格 80 名以上（旧帝大・筑波大 10、茨城大・宇都宮大・群馬大・埼玉大 50 以上）、難関私立大合格 50 名以上（早稲田、慶応、上智、東京理科、GMARCH）を目指す。	

別紙様式 2 (高)

高校と附属中学校の全職員の共通理解のもと、中高一貫教育校のメリットを最大限生かすカリキュラムの策定を、高校と附属中学校が協働して進めていく。	規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養	⑤基本的生活習慣の確立を図る。 ⑥学校内はもちろん校外においても元氣な挨拶を励行し、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成することで規範意識の高揚を図り、校則違反者ゼロを目指す。 ⑦積極的に清掃活動に係わる雰囲気づくりを推進し、清潔な学習環境で落ち着いた雰囲気での学習ができる場の形成に努める。 ⑧自律の精神や自己抑制力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成に努める。	
	特別活動の充実とコミュニケーション能力の向上	⑨キャリア・パスポートを活用し、特別活動の活性化を通して生徒相互の融和を図り、コミュニケーション能力を育て、自己肯定感を高めていく。 ⑩部活動は、学業との両立を図り、質の高い練習を通じて、県大会や県外大会出場と、学校生活の充実を目指す。(部活動加入率と満足度 80%以上を目指す。) ⑪学校行事の改善充実を図り、中高一貫校としての新たな伝統の継承に努める。	
	広報活動の推進と地域との連携	⑫ホームページを充実させるとともに、学校案内等を刷新し積極的な情報発信を行い、「社会に開かれた学校づくり」に努める。 ⑬附属中学校とともに学校説明会の充実を努め、広い地域の中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。 ⑭学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。 ⑮進路だよりや年次通信などの紙媒体、メール配信やホームページなどの電子媒体を活用するとともに、進路講演会・年次PTA・PTA支部学習会等あらゆる機会を活用して、生徒・保護者に進路や学習に関する情報を提供し、連携を深める。 ⑯地域と連携した課題解決型探究活動を推進し、地域に信頼される学校作りに努める。	
	いじめの未然防止と早期発見、早期解消の確立	⑰道徳教育や教育相談等を充実させ、いじめの未然防止と早期発見、早期解消に努める。 ⑱カウンセラーとの連携を充実させると共に、全教職員がカウンセリングマインドに立った指導を行い、早期対応に努める。	
	中高一貫教育校としての高校教育改革	⑲附属中学校と高校が有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組む。	
	働き方改革の実現	⑳業務の見直しを進め、削減できる事業を各校務部及び年次で協議するとともに、ICT を活用して業務内容の軽減を図る。 ㉑本校の時間外在校時間における月平均時間は 20 時間 38 分、月平均 45 時間超過者割合(%)8.6%、月平均 80 時間超過者割合(%)0.9%である。時間外在校時間 45 時間以内 90%を維持し、80 時間超過者ゼロを目指す。	
	授業改善	㉒生徒による授業評価での授業満足度3.5以上を目標に、生徒の学びを引き出す授業力の評価(Teaching)と生徒の学びを支援し伴走する力の評価(Coaching)により、教員個々の授業改善を推進する。	

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科	国語	家庭学習の励行を推進する。	日常生活において自学自習の習慣を確立させ、積極的に教科に対して向き合う姿勢を作らせる。精選した課題を通し、家庭学習に自主的に取り組ませる。③④		
			定期テストや模擬試験の事後処理として、間違ったところを確認し、また苦手分野を理解させ、今後の自学自習の目安を立てさせ、理解の定着を図る。③④		
		進学に対応できる読解力・表現力の身につく授業を実践する。	大学入試以降の生涯も見据えた思考力・判断力・表現力を伸ばすため、グループワーク、ディベートを授業の中で積極的に取り入れる。また、i P a dを活用し、理解の共有を深める。②		
			3年間で育みたい力を踏まえた年間計画を作成し、計画的な授業を実践し、個別の進路に対応した確かな学力を付けさせるとともに、教養としての国語の力や批評精神を高めさせる。③④		
			読書環境を整える。図書館と連携し、教材に合わせた図書紹介を行うよう努める。また、読書感想文コンクールをはじめ、各コンテスト・コンクールへの応募を促す。③		
	地歴・公民	新課程に示された、多面的・多角的な考察、構想力、効果的な説明、議論する力の育成に努める。	新聞記事、記録映像、教科書のQRコード、副教材等を効果的に活用し、生徒の興味関心を喚起する授業展開を実践する。②③		
			総合・探究科目、公共など、新科目の指導法・評価法について研鑽・協議する。②		
			新教育課程研修協議会など各種研修会に参加し、研修結果を教科内で共有し、授業改善に役立てる。②		
			生徒の自発的・能動的な授業への参加を促す学習法を開拓する。②③		
		時事、論述問題に対応できる考察力、構想力を育成する。	ニュースや新聞など、リアルタイムな題材を考えさせる。②③		
			互いの意見を発信・議論する力（ディベート力・プレゼン力）を養う。②		
		自ら進んで学び考える学習習慣の育成に努める。	自ら課題を設定し、考察、発信できる学習習慣の構築、メディアリテラシーの能力育成に努める。②		
	数学	基礎学力の向上を図る。	授業の開始と終了時刻を厳守する。③⑤		
			年間学習計画に沿うよう交換、補填で授業時間の確保に努める。③		
			章末テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは、補習を実施する。③④		
			学習内容を定着させるため、休み時間、放課後等に質問を受ける体制を整える。③④		
		家庭学習習慣の定着に努める。	課題に取り組ませ、家庭学習の習慣をつける。④		
		自ら学ぶ意欲を育めるよう、授業の改善に努める。	授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。②③		
			学習実態調査に基づき、生徒の実態に即した指導法を工夫改善する。特にグループワークやグループディスカッションなど主体性のある授業を展開する。②③		
			年次を超えて教科内で指導内容を話し合い、授業公開を利用して、授業内容・指導法を研究する。特にICT機器を活用した授業を研究する。②		
	理科	分かりやすい授業、興味関心を喚起する授業を提供する。	時事ニュースや最先端の研究テーマを取りあげ興味関心を喚起する。②③		
			教材・発問の工夫、コンピュータの効果的な活用により、分かりやすい授業を展開する。②③⑩		
			資料集の活用や実物を通して、身近な自然現象に関連をもたせる。②③		
		自然現象に関する問題提起をし、理科的な思考や発想を身につけさせる。	生徒どうしでの話し合いやグループ活動などを通して、探究の過程を意識した授業を行う。②③⑧		
			実習教諭の協力により、単元ごとに関連した実験観察を実施し、考察力を養う。②④		

別紙様式 2 (高)

		進学に対応できる思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を目指す。	受験頻出問題を単元ごとに取り込み、演習時間を確保する。 ③④			
		生徒個々の習熟度に応じた指導をする。	理科に関連する校外研修へ積極的に参加し、各自研鑽に努める。 教員間での情報共有の場を積極的に設け、授業の質の向上を図る。 ②②②			
			課外の実施、学習内容の深化のため適宜、質疑応答の時間を設ける。 ②③④			
			基礎力の身についていない生徒に対し、個別指導等を実施する。 ③			
	保健 体育	I C T機器を活用した保健体育の授業を展開する。また、授業を通じ健康観や人生観の向上を図る。	単元目標を把握し、教員間で情報を共有しながら授業計画をすすめられるようにする。 ②②②			
			生徒が主体となり、最新のデータや資料を収集し、I C T機器を活用したペアワークやグループ学習の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を展開する。 ②③②②			
		現代社会の中で、心身共に健康に過ごしていく為の知識を習得し、実生活に活かす。	生涯にわたって健康作りの基礎となる知識を身に付けさせる。 ②⑤⑤			
			個人ごとに行う調べ学習で得た知識を他の生徒に説明することによる、知識のインプット、アウトプットを通して、知識の定着を図る。 ②③③			
		基礎体力の向上を図りながら、種目ごとの特性を理解し、スポーツの楽しさを覚えることで、生涯にわたって運動に親しむ習慣を定着させる。	年間を通じて、毎時間補強運動や体づくり運動の時間を設け、体力向上を図る。 ②⑤⑤			
			ゲームの進め方やルールを工夫し、生徒の実態にあわせ生徒の運動量を確保する。 ②⑧②②			
			各運動領域で、その種目の経験者を分散してグループを作り、生徒の技術向上を図る。 ②⑧⑧			
			各グループの技量や技術のバランスを考え、生徒が楽しむことのできるゲームを展開する。 ⑧⑧			
	芸術	授業研究に取り組み、指導法の工夫・改善を図り、生徒が芸術についての学びを深められるようにする。	豊かな想像力や感受性を養うため、個別指導も念頭に置いた、個性を尊重する指導を行うとともに、日本の伝統的な芸術に触れ体験できる授業を展開し地域社会で活躍できる生徒を育てる。 ①②③⑩②②			
			生徒が主体的に取り組める教材を精選し、グローバル社会で活躍していけるような芸術的素養を身に付けさせ、中高を通して芸術探究のできる授業を展開する。 ①②③④②②			
		さまざまな表現・鑑賞活動を通して、生涯を通じて芸術を愛好する生徒を育成する。	さまざまな表現活動を実施しながら、コミュニケーション力を高め、仲間と共に協働的に活動できるグループワークを多く取り入れる。 ①②③⑧⑩⑦②②			
			鑑賞活動等を通じ、世界の多様な芸術を体感し、芸術のよさや楽しさを感じさせることにより、深い学び・対話的学びを実現させる。 ①⑧②②			
		生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。	芸術系及び音楽教育系大学の進路希望者にも対応できる授業内容の充実を図るとともに、個に応じた紫西 CS 等を活用した課外を実施し、進路希望の実現に努める。 ①③④④			
		環境整備に努める。	表現活動に応じた、教室環境・備品の整備に努める。 ⑦⑦			
	英語	下館一高の英語教育をつくる。	中高 6 年間を見通した Can-Do リストを活用し、教員間、教員と生徒間で学習到達度目標の共通認識を図る。新課程の指導法や教材の活用、評価法等の実践を学年間で引き継ぐ。 ②③④④⑩⑨			
			計画的かつ持続可能な評価方法の研究と実践を行う。 ②③②②			
			教材の共通化を図り、指導法の研究とノウハウの蓄積を行うために相互授業参観を積極的に行う。 ②②②			

別紙様式 2 (高)

			中高 6 年間を見通した効果的な指導体制づくりを進めるとともに、相互授業参観や教材・評価方法等の引継ぎを通して、中学と高校の連携を一層強化し、特色ある英語教育の実現を図る。 ②③④⑱⑳			
		CEFR・J A2.2 以上の生徒数：1 年生 90 名、2 年生 120 名、3 年生 200 名を目指す。	生徒が各技能の向上に目標をもって取り組めるよう、日々の授業の中で働きかけ、支援する。 ②③④㉒			
			言語活動やパフォーマンス課題を通して、生徒の学習到達度を把握し、適宜助言をする。 ②③㉒			
			英検等の外部試験の受験を促し、面接や英作文の練習を支援する。 ③ ④			
		自律的に学習を進められる生徒を育成する。	ICT を活用し、個々の学習状況に応じた指導を実践する。併せて、家庭学習の状況把握を行い、学習を振り返る機会を定期的に設ける。 ②③㉒			
			日々の授業や課外等を通して、個々の到達度や適性に応じた学習支援を行う。 ③④㉒			
	家庭	暮らしに関わる基礎的・基本的知識と能力を育てる。	実生活に生かすため、実験・実習等の実践的学習を多く取り入れた授業を展開する。 ②③			
			学習ノートの提出や定期考査で学習の理解度を確認する。 ②③			
		生活における問題を発見し、課題を設定して解決のために思考・判断できる生徒を育てる。	ワークシート・ICT を活用し、思考・判断・表現を把握する。 ②			
			家庭に関する新聞記事等を活用し、ホームプロジェクト学習（課題解決型学習）につなげる。 ②			
	情報	座学を通じて、情報に関する科学的な思考力、判断力を伸ばす。	日常生活に即した情報技術を題材に、情報社会の仕組みについて興味を喚起し、共通テストを見据えた基礎的・基本的な知識を習得する授業を行う。 ③④			
			Google for Education 等のツールを積極的に活用し、グループワークの際に生徒が合意形成の手法を学ぶ助けとする。 ②			
		実習を通じて、情報技術を活用する基本的な技能と表現力の向上を図る。	日常生活に即した実習を題材に、PC 室で使うことのできるツールを活用して、実践的な問題解決力、理数的なものの考え方を学ばせる。 ③④			
			PC 室の学習環境の改善や利用法の工夫を行い、生徒が学びやすい環境を作る。 ③			
		個別最適な学びを促進する。	提出物の内容と考査成績から生徒の学習状況を把握し、これをもとに授業内課題を作成する。生徒が自分に合った課題を選択したり、より発展的な内容に取り組んだりできるようにする。 ②③④			
教務部		特色ある教育課程の編成及び運営に努める。	各年次・各教科・各校務部との連絡調整を行い、将来を見据えた、より良い教育課程や時間割の編成や運営に努める。進学重視型単位制の特色を教育課程に反映させる。 ①②			
		授業時間の確保に努める。	計画的な運用により現行のカセットシステムの利点を最大限に活かし、授業時間の偏りを減らすための曜日変更や行事の調整を行い、バランスのとれた学習進度を維持する。 ③			
			日々の授業変更を管理し、適切な時間割を立案する。授業の開始と終了時刻を厳守し、1 時間の授業にこだわることで、生徒・職員ともに「授業を大切にする」意識の徹底を図る。また、授業時数のバランスの確保に留意し、特別時間割、使用教室の確保などの調整を行う。 ③			
		各校務部・各年次・各教科など	「チーム学校」の考えのもと、附属中・各校務部・各年次・各教科などとの連絡を密にし、各			

別紙様式 2 (高)

	との連携を密にし、円滑な学校運営を図る。	行事の日程や内容などの情報収集に努め、その円滑な運営や改善を図る。また、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組み、働き方改革につなげる。 ⑪⑱⑳		
	定期テストなどの円滑な運営を図り、授業改善に努める。	定期テストの企画立案、時間割の作成とともに、校務支援システムを使用し、円滑な運営に努める。各教科・年次からの要望も取り入れ、結果が効果的に生徒に還元され、授業で培った力がより正しく評価されるように、テストの在り方や内容を十分検討していく。 ③		
		観点別学習状況評価について理解を深め、生徒の学習実態を反映するように、評価方法の工夫や在り方を更に研究する。 ②③		
	生徒の進路希望実現のための情報共有と活用できる環境を整備する。	学習進路部と連携して、大学情報等のデータ更新などのサポートを心がけ、生徒の進路計画を立てやすくする。大学入学共通テストに関する情報収集、共有に努め、授業への反映を図る。 ④		
	I C T環境を整備し、生徒への学習支援や校務や校外への情報発信の効率化を図る。	公文書等のデータをファイル管理し、円滑な運用をサポートする。また、ホームページ、緊急情報メールを通じて、行事連絡や非常時の対応を迅速に伝え、近隣中学校や地域からの理解と信頼を得られるように工夫する。ICT 活用のノウハウを教員間で共有できるよう、関係校務部と連携する。DX ハイスクール事業を通して、ICT 環境のさらなる充実を図り、学習支援の面で生徒への還元が十分にできるよう事業内容を計画する。 ③⑫⑯⑳		
		ネットワークに関わる情報の提供に努め、教員間の情報格差をなくす。 ⑳		
		パソコンやタブレットの取り扱いに注意し、情報管理の徹底を図る。 ⑳		
		校内ネットワークや生徒の google アカウントの適切な取り扱いを適切に管理し、学習環境の安定化を図る ⑳		
	生活部	校内LANのセキュリティ管理をする。緊急時の対応やサーバー等を整備し個人データの管理を徹底する。 ⑳		
		心の教育の充実に努める。		
		挨拶の励行とマナーアップの推進に努める。特に挨拶については登校指導のほか、学校内においても励行させるとともに継続的に指導していく。 ⑥⑧		
		問題行動の予防や早期対応に努める。いじめなどの実態把握をするため、定期的にアンケートを実施する。 ⑧⑯		
		スクールカウンセラーと連携し教育相談の充実に努める。教職員対象のカウンセリング研修会を実施し、全ての教職員で心の指導にあたる体制づくりをする。また、カウンセリング・サポート係が中心となって、心の問題を抱える生徒に早期に対応する。 ⑧⑯⑳		
		服装をきちんとさせるなど、規範意識の向上に努める。		
		年次・担任・授業担当者による指導や呼びかけを徹底する。さわやかマナーアップ週間の登校指導、集会時における生徒への呼びかけを通して、服装をきちんと着用させ、規範意識の向上に努める。 ⑥⑧		
		基本的な生活習慣の確立に努める。		
		欠席・遅刻生徒を減らすために、各年次、担任と協力体制をとって指導にあたる。遅刻の多い生徒に対しては、生活部、年次と連携し声掛けや面談をするなど継続的に指導していく。⑤⑦		
		さわやかマナーアップ週間の登校指導を通して登校時間の厳守を呼びかけ、遅刻生徒の減少に努める。 ⑤⑥		
	安全で有意義な学校生活の実現に努める。	登校指導や自転車・バイク点検の際に、交通ルールやマナーの向上を図る指導を実施する。 ⑥⑧		
		教室の施錠を徹底し盗難防止に努めさせる。駐輪場の巡回も定期的におこなう。 ⑥⑦		

別紙様式 2 (高)

		交通安全委員を中心に P T A ・地元警察・地域社会と連携しながら交通安全キャンペーンやバイク講習会を実施する。 ⑥⑭			
	ケータイ・ネットの安全利用の充実に努める。	ケータイ・ネットの安全教室を利用してスマホによるトラブルを未然に防ぐとともに、犯罪等に巻き込まれないよう知識と実践力を身につけさせる。また学習進路部と連携し、睡眠時間や学習時間確保の重要性を理解させる。 ⑥⑧			
	健康教育を推進し、心身ともに健康に生きるための知識と能力を育て、健康に対する意識の高揚を図る。	新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症の予防や啓発に努める。 ⑦			
	健康で安全な学校環境の整備及び美化に努める。	1 年次を対象に、外部講師を招いた講演会（性に関する講演会・薬物乱用防止教室）を実施する。 ⑪			
		月 1 回のペースで、生活部職員が校内を巡視し、清掃用具の破損や不足を確認して、清掃が滞りなく行えるように環境を整備する。 ⑦			
		避難訓練を通して、非常時の際には自ら考え判断し、適切な行動が取れるようにする。 ⑦⑪			
		学校内外の美化対策に協力し、また清潔な環境整備の重要性も指導する。 ⑦⑪			
		毎日の清掃活動を指導し、清潔な学習環境整備に努める。 ⑦			
		保健室の適正使用を指導する。 ⑤⑬			
特 別 活 動 部	特別活動を通して、豊かな人間性を養う。	学業との両立を保ちつつ、部活動の活性化を図り、部活動参加率と満足度 80%以上、県大会・県外大会出場を目標に充実した活動を目指す。また、各行事も含めた特別活動への生徒一人一人の振り返りを通して自己実現を図る。 ⑨⑩			
		芸術鑑賞会において本物の舞台芸術を体験させ、想像・創造力の充実を図る。 ⑪			
	中学・高校の連携した行事の改善を図る。	附属中学校での特別活動の内容を検証し、中高一貫を含めた充実した活動を通して多様なコミュニケーション能力の育成を目指す。 ⑪			
	学校行事を充実させる。	生徒会と執行部が中心となり、生徒の自主的かつ充実した活動を通して、計画を立てて実行する力と、生徒一人一人のコミュニケーション能力の育成をはかり、より良い人間関係を構築する。 ⑨⑪			
学 習 進 路 部	生徒の学力向上を支援する。	スタディサブリを効率的に利用して、生徒の学習状況を把握するとともに、生徒の自学力の向上を図る。 ③④			
		外部模試等の結果を管理し、データを有効活用する。 ③④			
		課外（平常・夏季）・紫西 CS 等を計画し、生徒の学習活動を支援する。 ③④			
		各年次で「学習アドバイス」を発行し、生徒の自学自習を促す。 ③④			
	教員の授業力及び進路指導力を高める。	長期休業中の予備校による教員研修を奨励し、新しい学力観に基づく授業改善に資する。 ②③④②②			
		進路指導に関する研究会等に積極的に参加し、成果を他の教員に還元する。 ②③②			
		卒業年次による進路報告会を開き、3 年間（6 年間）を見据えた進路指導を行う。 ②③④			
	確かな学力に基づいた進路実現を支援する。	生徒に適切な進路情報を提供するとともに、生徒が進路情報を身近に閲覧できる環境の整備に努める。 ③⑮			
		外部模試を計画的に実施し、その結果及び動向を把握し、生徒の進路選択に資する。 ③④			

別紙様式 2 (高)

		国公立大学合格 80 名以上 (旧帝大・筑波大 10、茨城大・宇都宮大・群馬大・埼玉大 50 以上)、 難関私立大学合格 50 名以上 (早稲田、慶応、上智、東京理科、GMARCH) を目指す進路指導体制を 整える。 ③④			
	キャリア教育の充実を図る。	生徒の進路希望を把握して適切な進路情報を提供し、進路だよりや進路通信、進路の手引きの 発行を通して、生徒や保護者にも進路情報を効果的に発信する。 ③⑫⑮			
		進路行事 (進路講演会・紫西プレカレッジ・企業訪問・大学見学会・合格者との懇談会等) や 紫西 CS 等を計画的に行うことで、学問への興味関心を喚起し、進学への意識を高める。 ③④			
		医学部進学支援を行う。 ③④			
		小論文、志望理由書の指導を 1 年次から体系的に実施する。 ③④			
		大学公開授業等を案内し、参加を促す。 ③④			
	図書館の環境を整え、資料・情 報を収集し、提供する。	図書の実態を図り、展示・装飾・配置レイアウトを工夫する。 ③⑧			
		探究的な学習につなげられるような資料・情報を収集し、提供する。 ③⑧			
		生徒主体の図書委員会活動を行う。 ③⑧			
	適切な役割分担を遂行する。	各係の連携を図るとともに、各係の仕事内容を吟味・整理し、緊急の事態や新しい課題に対応 できる態勢をつくる。 ⑳㉑			
渉外部	P T A の活動を充実させ、諸行 事への保護者の参加率を高め る。	P T A 総会及び支部総会などを充実したものにする。 ⑭			
		校内外で開催される各種 P T A 会合に積極的に参加し、多くの情報や資料を収集し、今後の P T A 活動に活かすように努める。 ⑮			
	学校と家庭の連携を図り、協力 体制を深め、生徒の学校生活を 充実したものにする。	各支部の活動について、適切な支援を行う。 ⑮			
		生徒指導委員会や年次 P T A などを通して、保護者と職員間の情報交換を行い、共通理解の 下に、生徒の生活上の変化や問題点を把握し、指導の協力体制を確立する。 ⑮			
	広報活動を充実させ、情報の公 開に努める。	大学見学会などを通して、保護者に進路に関する情報を提供し、連携を深める。 ⑮			
		広報委員会の活動を通して、保護者の活動を充実させるとともに、P T A 及び生徒の活動につ いての情報の公開に努める。 ⑭			
探究活動 推進部	「総合的な探究の時間」を通 し、学びに向かう力、人間性を 伸長し、他者と協働しながら課 題解決にあたることのできる人 財を育成する。	課題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力が育成できるような探究活動の計画・実 施、およびその支援に努める。 ①②③⑯⑳			
		課題の設定・情報の収集・整理分析・まとめ・表現など探究の過程で、仮説検証を繰り返すプ ロセスを通して、論理的思考力と実践的な課題解決能力を育成に資する。 ②③㉑			
		1 人 1 課題でのテーマ設定とし、生徒の主体的な探究活動を促進する。 ②③			
		ゼミ形式での探究活動を計画・実施し、その充実を図る。他者との協働を通して、課題を再発 見したり、知識を深めたりできる場面を設定する。 ②③			
		附属中と高校が連携した探究活動の充実を図る。 ①②⑪⑲			

別紙様式 2 (高)

	「館一探究プロセス」事業や校外体験活動を通し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人材を育成する。	国際感覚をもった人材の育成を目指し、学校外部資源との連携や姉妹校等との国際文化交流、海外研修などの国際理解教育を推進する。 ①⑩			
		産官学連携を図り、地域社会の抱える課題や未来を考え、その解決に向けた取り組みへの参画を推進する。 ①⑩			
		科学的な思考の獲得に向け、大学や企業と連携した科学体験、外部コンクール等への参加などの科学教育を推進する。 ①②③④			
	キャリア教育の充実を図る	生徒1人1人の進路実現に向け、探究成果と進路を結び付けた活用ができるような教材等の作成、及び計画を立案する。 ①②③④⑫			
		インターンシップ等、産官学連携によるキャリア教育支援策を計画・実施する。 ①③⑩			
		学外ボランティアや産官学連携事業への参画を通じ、自己有用感の醸成とともに、主体的に進路を切り拓く力の育成を図る。 ①⑨⑩			
	本校の魅力や特色の外部への積極的な発信に努める。	事業報告書等を作成し、目指す学校像を地域や小中学校に発信する。 ①⑫			
		外部発表会やメディア等を活用し、探究の成果を学外へ広く発信することで、本校の魅力化と地域からの信頼向上を図る。 ⑫			
		筑西市や地元企業と連携し、生徒主催の地域イベント等を計画・実施する。 ①⑩			
1 年次	学習習慣の確立と基礎学力の育成する。	集中して授業に取り組ませるとともに、効果的に学習課題を課すことによって、予習・授業・復習の学習サイクルを確立させる。 ③④			
		手帳や学習アプリを使った自己管理を推進することで、家庭学習を習慣化し、「平均3時間以上」を目標に毎日継続して取り組める学習時間の確保を目指す。 ③④⑤			
		アクティブ・ラーニングやPBL型授業などの実践方法を研究し、生徒が主体的に学ぶ授業を行うように努める。 ①②③④			
	基本的な生活習慣の確立を図る。	コミュニケーション力の向上に向けて挨拶を励行し、遅刻・早退・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑥			
		服装・頭髮の指導を徹底し、制服を正しく着用させることで社会性の育成に努める。 ⑥			
		清掃活動を徹底することで、学習環境を整えるとともに公德心の育成に努める。 ⑦⑧			
		Classroom を授業毎に効果的に利用し早めの学習準備を推奨し、朝から落ち着いて学校生活を送る環境を作る。 ⑤⑥			
	進路目標を決定する。	探究活動、行事（紫西プレカレッジ・企業訪問等）、キャリアナビを利用した個別面談などを通して、適正な文理選択及び進路選択につなげる。 ①③			
		学習アプリを活用することによって自学力の向上を図り、高い進路目標の設定と挑戦する姿勢を育てる。 ①③④			
		新聞を読むことを推奨し、多くの社会問題に興味を持たせるとともに社会参加を促す。 ①			
	コミュニケーション能力の育成を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事・年次行事などに積極的な参加を促し、主体性、コミュニケーション力の育成を図る。 ①⑨⑩⑪			
		キャリアナビを利用して生徒が学校行事等への振り返りを行い、自己の非認知能力を確認するとともに自己肯定感の向上を図る。 ①⑤⑥			
	いじめや不登校生徒への早期対応をしていく。	定期的な調査と日常的な観察により、いじめの早期発見と解消に努める。 ⑪			
		カウンセラーや保護者と連携を強化し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑪⑫			

別紙様式 2 (高)

		道徳教育や学級活動を通して、自己肯定感の向上と他者を尊重する態度を養う。 ⑧⑰			
2 年次	学習習慣の確立と基礎学力の育成をする。	集中して授業に取り組ませるとともに、効果的に学習課題を課すことによって、予習・授業・復習の学習サイクルを確立させる。 ③④			
		学習計画に基づいた自己管理を推進する。特に 3 年次の進路活動を見据えタイムマネジメント力を伸ばし、家庭学習の習慣化、隙間時間の有効利用で 1 日 3 時間以上の学習時間確保を目指す。 ③④⑧			
		AL や PBL 型授業などの実践方法を研究し、生徒が主体的に学ぶ授業を行うように努める。 ②③④②②			
		探究活動、進路行事(大学見学会・進路講演会等)、個別面談などを通して、具体的な進路目標の決定につなげる。 ①③④①①⑥			
	進路目標を決定する。	学習アプリを活用することによって自学力の向上を図り、高い進路目標に挑戦する姿勢を育て、英検等の取得など受験に向けた具体的な行動を促す。 ①③④			
		新聞等を活用して多くの社会問題に興味を持たせ、基礎的な教養や時事的な知識を蓄積して、志望理由の具体化や言語化につなげる。 ①②③④			
	基本的な生活習慣の確立を継続する。	コミュニケーション力の向上に向けて挨拶を励行し、遅刻・早退・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑥⑧			
		身だしなみの指導を徹底し、整えさせることで社会性の育成に努める。 ⑥⑧			
		清掃活動を徹底することで、学習環境を整えとともに、公德心の育成に努める。 ⑥⑦			
		早めの登校を推奨し、始業までの時間に学習をすることで、朝から落ち着いて学校生活を送る環境を作る。 ⑥⑦			
	コミュニケーション能力の向上を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事などに積極的に参加させ、コミュニケーション力と自己肯定感の向上を図るとともに、学校の中核として活動する生徒を育成する。 ①⑧⑨⑩⑪			
		生徒が主体となって生き生きと活動できる年次行事の企画と実行をする。特に修学旅行では、旅程の立案や情報発信等の主導権を生徒にも与え、計画から実行までのプロセス構築を実践させる。 ①⑧⑪			
	いじめや不登校への早期対応をしていく。	他者への配慮や多様性を認め合い、協調性を持ってより良い学校生活を送るための指導を行い、定期的な調査と日常的な観察により、いじめの早期発見と解消に努める。 ⑧⑰			
		SC や SSW などの専門機関と連携を強化し、保護者と協力して困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑧⑱			
		学級活動や校外でのボランティア活動を通して、道徳的な教育を実施し自己肯定感の向上と他者を尊重する態度を養う。 ⑥⑧⑨⑰⑱			
3 年次	学習習慣の確立と受験に臨む基礎学力、応用力を育成する。 学習習慣の確立と受験に臨む基礎学力、応用力を育成する。	入試を見据え集中して授業に取り組ませるとともに、入試に応じた学習課題や模擬試験を効果的に活用し、確かな基礎力を土台とした応用力向上を図る。 ③④			
		手帳や学習アプリを使った自己管理を推進することでタイムマネジメント力を伸ばし、1 日 3 時間以上、休日 10 時間以上の家庭学習を目指す。 ③④			
		各 HR において朝 SHR 開始前や休み時間を学習に向かう時間として有効に利用し、放課後や土曜解放の紫西会館では自主学習の場として積極的な利用を促す。 ③④			

別紙様式 2 (高)

	キャリア形成につながる進路実現を果たす。	AL や PBL 型授業などの実践方法を研究し、生徒が主体的に学ぶ授業を行うよう努める。①②②		
		HR 等の進路探究の時間や個別面談などを通して学習状況を把握し、適性やキャリア形成につながる具体的な進路目標を決定する。④		
		それぞれの進路に応じて個別最適な学習指導や小論文指導を実施する。また、年内入試に臨む生徒を中心に、志望理由書の指導や英検等の資格取得を促す。③④		
		入試分析会等に積極的に参加して情報収集に努めるとともに、校内においては志望校検討会等で情報共有を図り、3 年次として団結した指導体制を構築する。③④		
	基本的な生活習慣の確立を継続する。	コミュニケーション力の向上に向けて挨拶を励行し、遅刻・早退・無断欠席などの指導を徹底する。⑤⑥		
		身だしなみの指導を徹底し、整えさせることで社会性の育成に努める。⑥⑧		
		清掃活動を徹底することで、学習環境を整えるとともに、公德心の育成に努める。⑦⑧		
		早めの登校を推奨し、始業までの時間に学習を促すことで、朝から落ち着いた学校生活を送る環境を作る。③④⑤⑧		
	コミュニケーション能力とリーダーシップ能力の向上を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事などに積極的に参加させ、コミュニケーション力と自己肯定感の向上を図るとともに、最上級生としての自覚のもと、学校を代表する存在として活動する生徒を育成する。⑨⑩⑪		
		生徒が主体となって活動できる年次行事を企画実行し、帰属意識、愛校心の向上につなげ、教育活動の円滑化と自己肯定感の向上を目指す。⑨⑪		
	いじめや不登校の対象生徒に早期対応をする。	定期的な調査と日常的な観察により、いじめの早期発見と解消に努める。⑪⑫		
		SC や SSW などの専門機関と連携を強化し、保護者と協力して困難を抱える生徒に適切な支援を行う。⑪⑫		
		道徳教育や学級活動を通して、自己肯定感の向上と他者を尊重する態度を養う。⑪⑫		

※ 評価規準：A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する